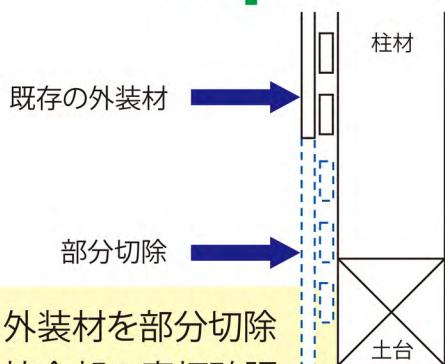


新SAT 耐震断熱改修構法

(一財)日本建築防災協会評価番号:DPA-住技-67「構造用合板による仕口・筋かいの補強及び既存モルタル外装を活用した耐震改修構法その2」

本技術は、技術講習を受け、技術者登録を行ったうえでご活用ください。

Step 1



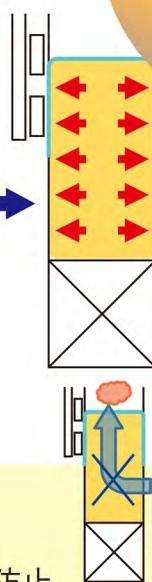
Step 2



Step 3



- ① 圧縮を解除
||
床下からの
気流止め効果 { 壁内結露防止
小屋裏結露防止 }

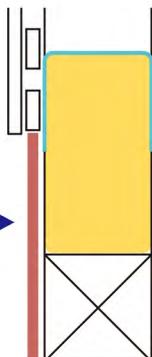


効果1

「気流止め」で
断熱性UP!

- ① 圧縮された断熱材を壁の中に挿入

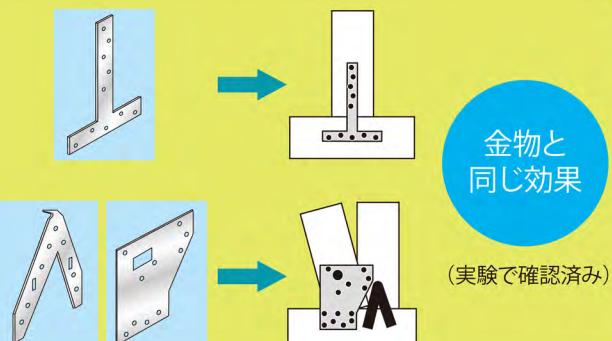
Step 4



- ① 構造用合板の
打ち付け
||
接合部の補強強化
(耐震性向上)

効果2

「構造用合板で補強」
耐震性能もUP!



JTC NPO法人
住宅外装テクニカルセンター

東京都中央区八丁堀2丁目19番6号 ヤサカ八丁堀ビル 〒104-0032
TEL : 03-6280-4680

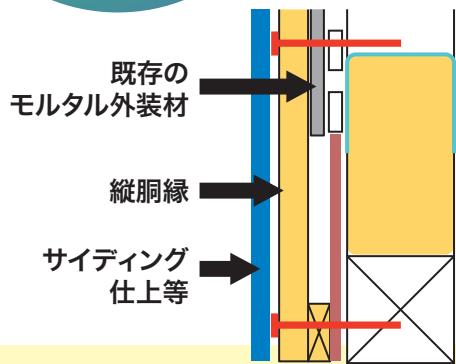
N Y G

一般社団法人
日本窯業外装材協会

東京都中央区八丁堀2丁目19番6号 ヤサカ八丁堀ビル 〒104-0032
TEL. 03-6280-3122
www.nyg.gr.jp

効果3

「モルタル外装材活用」で耐震性能もUP!



- ① モルタル外装材の上から縦胴縁
- ② 指定の木ねじで躯体へ留め付け



モルタル外装材が構造用面材のように頑張ります。
(実験で確認済み)

- 壁の補強強化
→耐震性向上
- さらに付加断熱も可能
→より一層の断熱性向上

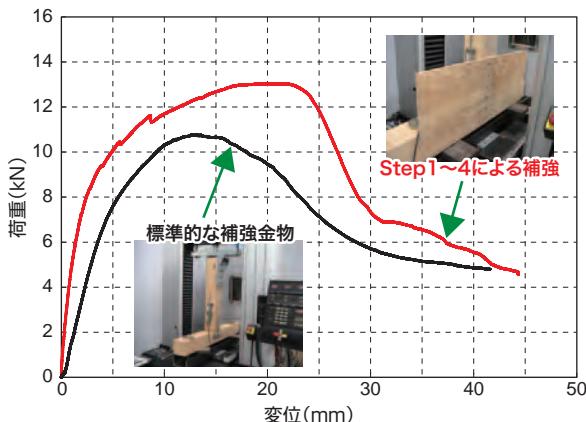
5大特長

5 4 3 2 1

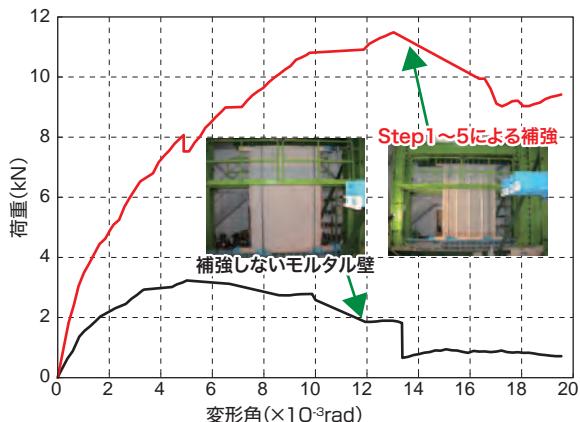
施工・加工手間が少ない
特殊な技能を必要としない
廃材の量が著しく削減
モルタルはく落の危険性低減
既存モルタルの防火性能を確保
窓業系サイディング仕上等により

補強の効果

■Step1~4(仕口接合部)の補強効果



■Step1~4(仕口の補強) + Step5(モルタル活用)の補強効果



構造性能値

| 改修状況 | 改修前 | 改修後 |
|-------------------------|----------------------------------|--|
| 柱接合部の低減係数 | ほぞ差し、くぎ打ち、かすがい等の場合 「接合部IV」の数値 | Step1~4実施後は 「接合部II」 |
| 木材30×90以上の 筋かいの壁基準耐力 | 端部金物なしの場合 1.9kN/m | Step1~4実施後は 2.4kN/m |
| 既存モルタル外装の壁基準耐力 | 2.2kN/m | Step1~4実施後は 3.1~3.8kN/m ^{*1} |

*1 既存モルタル外装の壁基準耐力は、モルタルの厚さ平面モジュールにより変わります。新SAT工法は、万一劣化が認められた場合には補修することにしているので、本工法適用後の低減係数については、上限の0.9とする。詳細は「新SAT工法 耐震・断熱改修マニュアル」をご参照ください。

本技術は、北方建築総合研究所、室蘭工業大学鎌田研究室(当時)
及び住宅外装テクニカルセンターの共同研究成果です。

サイディング仕上によって“美観”的向上

